

# 学生アスリートは「壁」をどう語るのか

辛島 亜由子 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 豊田 則成

キーワード：壁 語り 意味付け

## 1. 緒言

本研究では『学生アスリートは「壁」をどう語るのか』というリサーチクエスチョン (Research Question : 以下 RQ と称す) を設定し、質的にアプローチを行った。ここでは「壁」にぶつかった経験のある学生アスリートの語りから、発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とした。

## 2. 研究方法

インフォーマント (Informant : 情報提供者 : 以下 Inf. と称す) は、「壁」にぶつかった経験のある大学4年生のアスリート (女子競泳選手) 6名であった。インタビューマニュアルを基に、1人あたり約1時間程度で1対1形式の半構造化インタビューを実施した。分析方法については質的研究法の代表的手法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ

Grounded Theory Approach : 以下 GTA) を用いて行った。

## 3. 結果と考察

本研究は、『学生アスリートは「壁」をどう語るのか』という RQ の下、「競技に対して自己投入し取り組むアスリートは、壁にぶつかり、挫折感を抱くことによって、競技者としての自分と葛藤する。そこで壁と向き合おうとすることによって、壁とうまく付き合えるようになり、壁を意味づけるといったサイクルとして語る」という仮説的知見が導き出された。Fig.1には『学生アスリートが「壁」と向き合い成長していくプロセス』を示した。

## 4. まとめ

すなわち、学生アスリートは「壁」と向き合い、自己を意味づけることで成長できるといえる。

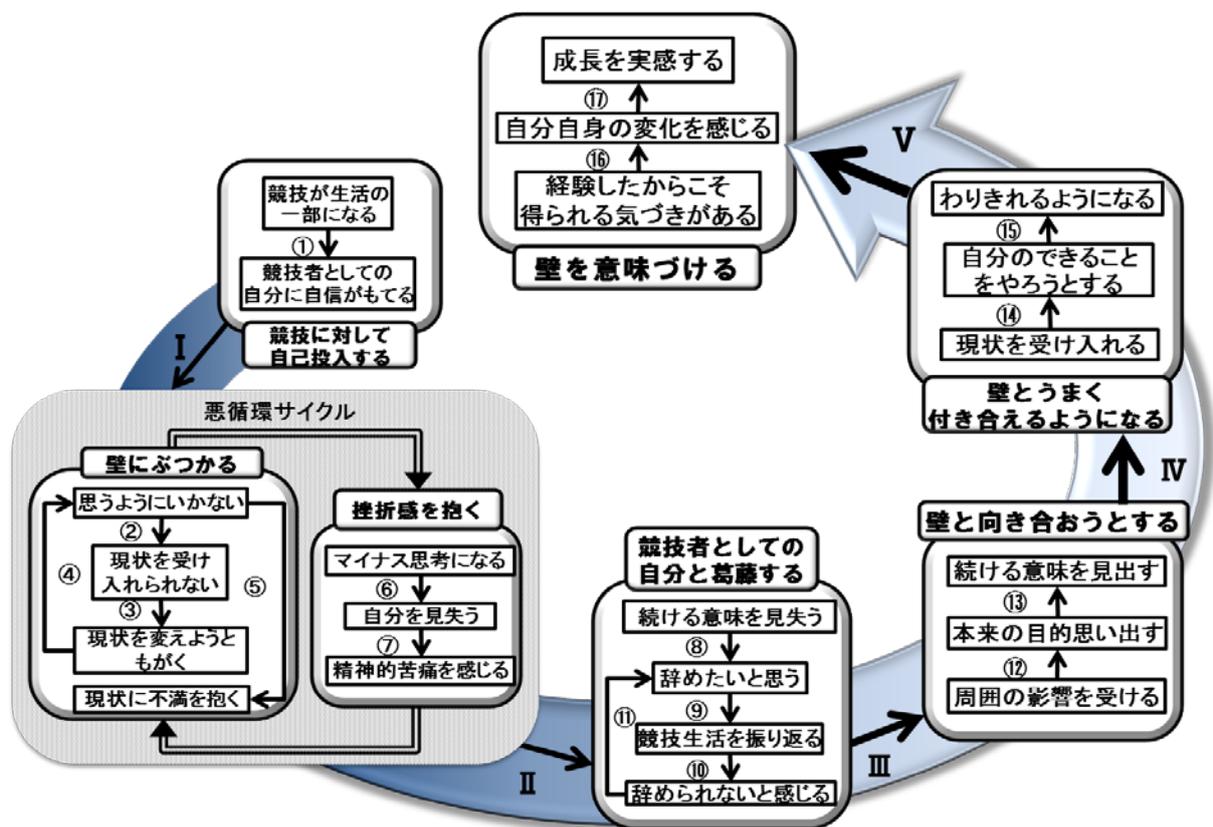


Fig. 1: 学生アスリートが「壁」と向き合い成長していくプロセス